

式　　辞

桜花爛漫のこの佳き日、ご来賓の皆様、保護者の皆様をお迎えし、令和6年度入学式を盛大に挙行できますことに深く感謝し、心より御礼申しあげます。

ただいま入学を許可いたしました321名の皆さん、入学おめでとう。心からお祝い申しあげます。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。健やかに成長され、堂々と入場された姿に、感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、新入生の教育に努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申しあげます。

新入生の皆さんには、百有余年の歴史と伝統を誇る二校の統合により誕生した本校で、3年間を過ごす権利を得ました。閥門を突破してつかんだ幸せをかみしめ、育んでくださった方々への感謝の気持ちと、今日の決意とを心に刻みつけてください。

皆さんには、高校生活の始まりという未知の環境に、期待と不安と緊張の入り混じった複雑な心理を抱いていることと推察します。これから的生活を前向きに受け入れてください。特に、自分に厳しい人はプラス思考であってほしいと願います。たとえば、試合や発表の前では、誰もが緊張し、結果がどうなるのか不安に感じるものです。プラス思考の場合、自分の良い面だけをイメージし「きっとうまくいく」と自分に言い聞かせ、自信をもって臨めるようにするといいます。イメージトレーニングは、いわばプラス思考の訓練です。シュート確率を上げたいのなら、シュートが成功した時のフォーム、ボールの軌道、ボールがゴールした時の音などをイメージしていくといいます。

とはいっても、結果が出ないこともあると思います。周囲の人と比べて「自分には才能がないのかも」とか「頑張っても無理かも」と考える時があるかもしれません。そうした時には、過去の自分と比べてみてください。きっと成長を実感できるはずです。高校3年間に覚えたり理解したりする知識量は膨大です。入学時の今と比べれば、相当数増えていくのです。

数値では捉えにくい思考力についても、同様のことがいえます。本校は「SSH・スーパーサイエンスハイスクール」に指定されています。全校生徒がSSHのプログラムで学ぶことになり、8年目を迎える。SSHのプログラムは、教員が説明した内容を生徒は覚えるという暗記・詰め込みではありません。本校は「自己調整力を持ち、社会の変化に対応できる探究力を備えた科学技術人材の育成」というテーマで生徒主体の探究活動を行っています。1年生で行う地元の課題を中心とした探究をふまえて、2年生になると本格的な活動を実施します。

活動の一端を紹介しますと、「探究」という授業時間に、生徒は興味関心に応じて班を作り、その班でどんなテーマにするか話し合います。様々な問題意識をもとに一つのテーマを設定し、仮説を立てます。その仮説について実験や調査等を行って検証し考察するというものです。検証が難しい仮説であれば、もう一度テーマを考えなおすことしばしばです。こうした過程を通して、課題を発見する力、情報を収集・整理し分析する力、文章を書く力、他人に伝える力などを育み、高校卒業後の活動の基礎を培っています。

高校での過ごし方や進路目標は、皆それぞれ異なります。背伸びするよう求められる時もあれば、皆さん自身が「もっと頑張らないと」という意識を持つ時もあるでしょう。自分を甘やかさず、根気強く努力することが大切です。もし、苦しくてたまらないと感じた時は「このままの自分でよい」と考えてください。無意識のうちに人間は変わっているのです。変化の速度は少し遅くなつたとしても、間違いなく成長しているのです。変化の速度を受け入れ、自分を大切にしてほしいと願います。そして、社会に貢献する人材に成長してください。

保護者の皆様におかれましては、これからもお子様を見守っていただきますようお願い申しあげます。お子様のよい点を認めながら、成長をご支援ください。

結びに、新入生の皆さんにとって、高校生活が実り多きものとなるよう祈念し、式辞といたします。

令和6年4月9日

群馬県立桐生高等学校 校長 高橋 浩昭